

新社屋移転を機に 「品質」と「安全」を一層重視した 検査業務を展開!

株ウイズソル

代表取締役社長

中野 克己



新年明けましておめでと
うございます。

今年度の概況を振り返り
ますと、石油コンビナート
のプラント定修工事の繁忙
期が長く続き、仕事量は確
実に増加しました。一方で
造船部門は、LNG輸送船
の連続建造に伴うアルミ球
殻の検査業務が一段落し、
新造船受注も厳しい環境に
あるため、検査に携わって
きた社員を石油関係の部署
にシフトしていく計画で
す。

務など、派遣社員を求めら
れる場面も増加し、これに
も対応できるよう動員力の
強化にも取り組む方針で
す。

幸い、今年度(第59期)
3月期の売上高は、プラン
ト定修工事が高水準で推移
し、発電設備等の新規需要
の創出もあつたことから、前
期を大きく上回る60億円を
達成できそうです。ただし、
私としてはなるべく無理な
受注を控え、高い品質と安
全な検査技術を皆様に
お届けできるよう、「信用」
を第一に捉えていく所存で
す。現場の作業量を調整し
ながら、全社員一丸で検査
施工に責任を持って当たつ
ていきたいと考えます。

その一環として、ISO
関連の品質管理業務と現業
部門の作業の一体化や、社
内事務に関する帳票類も整
理・削減し、効率的に作業
できる環境を整備していく
改革にも着手する方針で
す。

さて、当社は昨年12月、
第一本社と第二本社を統合
し、近隣に建設を進めてい
た本社新社屋に移転しまし
た。これに伴い、社員のN
D I資格教育や実務教育を
行う研修施設や各種実験が
できる開発施設を広く設
け、人材育成と開発体制を
それぞれ強化しました。

人材育成では、熟練の検
査技能者を講師に指名し、
管を立体的に測定する3D
スキャナーや、タンクの屋
根や煙突など高所の点検ブ
ロセスに無人航空機ドロー
ンを活用したいとの要望も
寄せられており、多様化す
るニーズに応えるべく開発
に注力しております。

来年度の事業計画につい
ては、高い品質と安全を最
優先に捉え、我々の陣容で
ベストな検査業務が尽くせ
る売上規模60億円を目標に
事業を推進するつもりで
す。非破壊検査業務で差別
化を図るには、品質と安全
しかありません。その約束
事を確実に履行した上で、
如何に早く正確に検査結果
を報告できるかが大切にな
ります。

情報の見える化を図るた
めには、PCによる情報処
理技術も磨く必要がありま
す。現場で集めた情報は、
社内での女性社員を活用し
速やかに整理していかうと
考えております。

また、今年度は新元号に変
わる年となるため、海外市
場への進出にも挑戦してい
く所存です。お客様の海外
部門の子会社を通じて、プ
ラントの補修に共同で携わ
る機会も増えてきました。
そのため、近く海外の調査
担当者や設け市場調査を開
始し、当社が開発したタン
ク底板連続板厚測定装置や
目視検査ロボット等が海外
でも使用できるか見極めて
いく予定です。

このように新社屋移転を
機に、「品質」と「安全」
を一層重視した検査業務を
展開していく所存ですの
で、本年も引き続きご支援
ご協力を宜しくお願いま
す。

昨年4月から施行される働
き方改革関連法で長時間労
働に上限が設けられる他、
派遣法の改正で派遣資格の
有無が厳しく問われる事か
ら、現場の検査員不足を如
何に補うかが今後の課題と
言えるでしょう。

当社では、新卒並びに中
途採用による検査体制の充
足に努めてきましたが、顧
客の人材不足に伴う品質業
務が高まる「航空・宇宙分
野」などに向けて、積極的
な事業展開を図ることで、
安心・安全な社会の構築に
貢献して参ります。